

第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

平成28年度6月21日(火)5校時

指導者 萩野谷 杏奈

1 単元名 世界の人々に目を向けよう

2 単元の目標

○世界の子どもたちやその教育の現状について問題意識を持ち、その課題解決のために自分にできることを主体的に考え、実践しようとする気持ちをもつことができる。

(他者や社会とのかかわりに関すること)

○自分で設定した課題について情報を集めて整理したり、自分たちにできることを計画的に実践し振り返ったりすることができる。

(学習方法に関すること)

○国際社会に生きる一員として、どのように世の中と関わっていきたいか自分の考えをもつことができる。

(自分自身に関すること)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、教育協力 NGO ネットワーク (JNNE) が主催している「世界一大きな授業」を導入に取り入れている。現在、世界で小学校に通えない子どもは 5800 万人いると言われている。国連総会では、「持続可能な開発目標 (以下 SDG s)」を採択し、2030 年までにすべての子どもが初等教育を受けられるようにすることを目標として掲げている。日本に住む子どもたちにとっては、6 歳になったら小学校へ行くことは当然のことのように感じられるだろう。しかし、実際には、世界の子どもの 12 人に 1 人は小学校に行くことができずにいる。「世界一大きな授業」は SDG s を反映しており、世界の教育の現状について学び、教育の大切さについて考えるよいきっかけを与えてくれる内容となっている。

「世界一大きな授業」は6つのアクティビティから構成されており、小学校高学年の児童から高校生の生徒を対象に行うことができる。本単元の導入ではアクティビティ1, 2, 4を行い、世界の教育の現状と原因や、文字の読み書きができないことの不便さ、そしてその現状を解決するための身近な活動例について学ばせていきたい。

また、単元の前半では学校に行きたくても行けない子どもたちの気持ちを想像し、自分自身の課題として捉えられるように、「児童労働シミュレーションゲーム」を行う。そのうえで、子どもが主体となって国内外の社会問題に取り組む国際協力 NGO 「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン (以下 FTCJ)」の方を講師として招き、自分たちにできる身近な活動について考えを広げていくためのワークショップ「ギフト+イシュー=チェンジ」を行う。

○「児童労働シミュレーションゲーム」とは

児童労働者の一生を疑似体験することができるカードゲームである。ゲーム参加者は、貧困地域で暮らす子どもになったつもりで、指示に従って次々とカードを引いていく。カードには

「物乞いをする」「レンガ工場で働く」「学校に行く」「農作物を盗む」などの生活の様子と共に、児童労働者が遭遇する具体的な出来事が書かれている。ゲームの終了の仕方は大きく分けて「自立」「死」「児童労働から抜け出せない」の3つに分けられる。ゲーム後には、参加者がどんなカードを引いたのかを全体で確認し、「自立」できた人が全体の3分の1程度しかいないことに気付かせ、児童労働者が日々直面している過酷な現実について目を向けさせていきたい。

○「ギフト+イシュー=チェンジ」とは

「ギフト」とは自分が好きなことや得意なことを表している。「イシュー」とは、「問題・課題」という意味である。これは、自分の好きなことや得意なこと（ギフト）と自分が興味のある問題（イシュー）を組み合わせ、自分にできること（チェンジ）を探すアクティビティである。世の中の問題を解決しようと思うととても一人ではできそうにないと感じられるかもしれない。このアクティビティを通して、趣味や特技を生かして気軽に小さな変化を起こすことができること、そしてそのような小さな変化を一人一人が起こしていくことが大切であることに気付かせていきたい。また、児童は自分たちにできる身近な活動として「募金活動」を挙げるのが考えられるが、募金するだけでなく、多くの人々に世界の教育の現状を知らせる啓発活動や、自分自身が問題に興味を持ってより深く、または広範囲に調べていく探究活動、そして外国の人々に興味を持って交流することも立派な「チェンジ」である。子ども達一人ひとりが自分とは異なる文化・背景・教育の現状に置かれている人々の存在に気づき、その事実の問題意識を持ち行動することが「チェンジ」であると捉え、その後の課題設定につなげていけるようにしたい。

この活動を受けて単元の後半では、担任が提示した活動や子どもたちが考えた活動を課題として設定し、計画を立てて取り組んでいく。活動の例としては、教育の現状や国際機関、外国の子どもの生活についてなど、興味のあるテーマについて調べる活動、外国の子どもや地域に住む外国人と交流する活動、教育の現状について多くの人に知らせる啓発活動、そして学校に行けずに困っている子ども達を少しでも助けるための支援活動などが挙げられる。児童が自分の問題意識に応じて課題を設定できるようにして、できそうなことからやってみる、というチャレンジ精神を大切にしたい。

募金活動は子どもたちにとっては最も身近なボランティア活動ではあるが、募金を集めることだけで満足してしまい、学習が十分に深まらない可能性があるため、指導する際には「何のための募金なのか」という目的をしっかりと把握し、それを分かりやすく相手に伝えること（啓発活動）を計画に取り入れることで、学習を深められるようにしたい。

(2) 国際理解教育部会の研究主題・目指す児童像との関連

本部会の研究主題は、「心の国際化から、共に生きる社会へ」である。「心の国際化」とは、子どもが国際社会の一員であることを自覚し、その問題を共感的に、自分自身の課題として捉えることであると考え。世の中に混在する様々な問題を他人事とはせず、協力して解決の道を探そうとする主体的な態度を育てていきたい。

「心の国際化」を実現するために、本単元では特に、学校へ行くことのできない子どもたちの現状を共感的に理解させたい。そのために、「児童労働シミュレーションカードゲーム」を行い、学校へ行くことのできない子どもたちが日々どのような気持ちで生活しているのか、また、学校へ行けないことでどのような不都合が起こるのかを、ゲームの後に十分に話し合いたい。そうすることで、世界の教育の現状に目を向け、自分たちにできる活動をやってみたいと思う心情をもたせていきたい。

(3) 児童の実態 (省略)

4 単元計画 (16時間)

小単元名	○活動内容	●教師の支援	教科との関連
世界一大きな授業 ～世界の教育の現状を知ろう～	世界一大きな授業 <アクティビティ1> ○クイズ1：世界の子どものうち12人に1人は学校に通えないことを知る。 ○クイズ2：学校に通えない理由を話し合った後にクイズで事実を確認する。学校に通おうとしたことで銃で撃たれたマララさんのことを知る。 ○クイズ3：世界では6人に1人の大人が読み書きができないことを知る。文字が読めないとどんな不便なことがあるか話し合う。 <アクティビティ2> ○文字が読み書きできない状況を体験する活動をする。 ○学習を振り返り、わかったことや感想、疑問を書く。 ・文字の読み書きができないと命を落とすこともある。 ・文字の読み書きができないととても不便だとわかった。 ・自分は学校に行けるのが当たり前だと思っていたけど、そうじゃないことがわかった。 ・学校に行けない子ども達のためにできることがあれ	●マララさんの写真やシリア難民の子ども達の写真を掲示し、学校に通えない子ども達を具体的にイメージできるようにする。 ●班の代表者が実際に水を飲んで確かめることで、飲むときの気持ちをつかめるようにする。	道徳4ー(8)

	<p>ばしてみたい。</p> <p>世界一大きな授業（アクティビティ4）</p> <p>○子どもが主体となって活動している国際協力 NGO 「フリー・ザ・チルドレン・ジャパン」の活動ストーリーを読む。</p> <p>○世界の様々な問題に対して活動をしている団体について調べる。</p>	<p>●「NGO」という用語について社会科資料集で確認する。</p> <p>●「FTCJ」の他にも世界の様々な問題の解決に取り組んでいる NGO や国際機関があることにも触れる。</p>	<p>社会科</p> <p>「世界中の日本」</p>
	<p>児童労働シミュレーションカードゲーム(本時)</p> <p>○ゲームを通して、学校に通えない子どもの生活への理解を深める。</p> <p>○ゲームをした後に3つの気持ちについて話し合う。</p> <p>＜辛かったこと・悲しかったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仕事をさせられたこと。 ・路上で事故にあったのに誰も助けてくれなかったこと。 <p>＜楽しかったこと・嬉しかったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両親に会えたこと。 ・学校に通えて自立できたこと。 <p>＜こんな助けがあればいいのに、と思ったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物乞いをしているときに、何かわけてくれる人がいればよかった。 ・うまく働けないでいたときに、もっといい仕事を見つけてくれれば自立できたかもしれない。 <p>○学習の振り返りを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は自立できたけどほかの友達は大変なことばかりで、これが実際そうだったらとても大変だと思った。 ・ほかの国では、道ばたで暴行を受けたりする人がいるなんてかわいそうだと思った。 ・自分にもできる人助けがしたい。 	<p>●学校に通えない子どもの生活を正確に理解できるように、写真のイメージを掲示したり、なじみのない語句は全体で確認する。</p> <p>●「かわいそう」という感想だけでなく、次の課題設定につながるような感想が出るように助言する。</p>	
<p>自分にできることをやってみよう</p> <p>～身近なところからチェン</p>	<p>FTCJ の講師による授業</p> <p>「ギフト+イシュー=チェンジ」</p> <p>○ワークショップを通して、自分の好きなことや得意なことと取り組みたい課題を組み合わせることで、現状を変えていくための活動ができることを知る。</p>	<p>●募金などの支援活動だけでなく、さらに詳しく調べて理解を深めることや、世界の現状を</p>	

<p>ジを起こそう ～</p>	<p>○感想や疑問を書きだして話し合い、次時の活動の見通しを持つ。</p>	<p>たくさんの人に知らせることも大切だということを講師の方に話してもらおうようにする。</p>	
	<p>自分たちにできそうなことを話し合い、今後の学習計画を立てる。 <課題設定とその後の活動の例></p> <div data-bbox="595 577 1054 763" style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>少しでも学校に行けない子ども達のためになるように、募金活動をしたい！</p> </div> <div data-bbox="627 768 1038 909" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>どの団体に寄付を送るか:ユニセフ、赤十字、NGO など</p> </div> <div data-bbox="180 943 703 1133" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○調べる ・外国の子ども達の暮らしについて ・世界の教育の現状について</p> </div> <div data-bbox="727 943 1318 1133" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○調べる 国際協力に関わる機関や事業について(外務省、ODA、JICA、国連、NGO など)</p> </div> <div data-bbox="180 1160 1366 1391" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○交流する ・地域の国会議員に対しインタビュー調査を行う(開発途上国の子ども達への教育問題に対してどのような政策を行っているのか、など) ・地域に住む外国人の方々と交流し、いろいろな国の学校の様子について話を聞く</p> </div> <div data-bbox="180 1417 967 1648" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○知らせる ・ポスターを作って校内に掲示する ・パンフレットを作って校内または地域に置いてもらう ・学習参観や「すはま学習発表会」で保護者に知らせる</p> </div> <div data-bbox="999 1417 1358 1637" style="border: 2px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○募金活動を行う</p> </div>	<p>●学校に行けずにいる子ども達のために、どんなことができるかを話し合い、そのために何をすればよいか活動の見通しを持たせることで、主体的に活動できるようにする。</p>	<p>国語 「学校案内パンフレットを作ろう」 社会科 「世界の中の日本」</p>
<p>振り返ろう</p>	<p>単元全体の活動を振り返り、今後どのように世の中と関わっていききたいか、自分の考えをまとめる。</p>		

5 他教科等との関連

道徳「いろいろな国の子ども達」4-(8)

○いろいろな国の子どもたちの様子の写真を見て気付いたことを話し合い、国によって子どもの生活の様子が異なることに気付く。

学活「気になる！ニューススピーチ」

○日直が気になるニュースについて紹介して自分の意見を述べる活動を朝の会で行い、世の中の出来事に対する関心を高める。

国語「学校案内パンフレットを作ろう」

○目的に応じて割り付けを工夫し、パンフレットを作る。

総合的な学習の時間

「世界の人々に目を向けよう」

○世界の子ども達やその教育の現状について問題意識をもち、自分にできることを主体的に考え、実践しようとする気持ちをもつことができる。

○国際社会に生きる一員として、どのように世の中と関わっていきたいか自分の考えを持つことができる。

社会科「世界の中の日本」

○日本とつながりの深い国の人々の様子について調べ、外国の人々と共に生きていくためには異なる文化や習慣を理解し合うことが大切だということに気付く。
○日本の国際交流や国際協力の様子及び国際連合の働きについて調べ、世界平和の大切さと、日本が世界に果たすべき役割について理解する。

国語「意見を出し合おう」

○意見の違いを大事にしながら話し合い、考えを深める。

6 本時の指導

(1) 目標

○ゲームを通して、学校に通えない子どもの現状について理解を深める。

(2) 展開 (3 / 16)

児童の活動	●教師の支援 ◆評価	資料等
<p>1 今までの学習内容を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界には、学校に通うことができない子どもがいる。 ・学校や先生の数が足りないから学校へ行けない。 ・貧しいから働かなければいけない。 ・戦争で学校に行けなくなる。 ・文字を読んだり書いたりすることができないと、手紙を書いたり本を読んだりできない。 ・買い物に行っても値札が読めない。 <p>2 そのような困った現状にいる子どもたちの気持ちをより具体的に想像するために、シミュレーションゲームを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">＜ゲームの流れ＞</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 児童一人ずつ役割カードを受け取る。 ② 役割カードに書かれた内容を読み、その現状に置かれた子どもになったつもりでその気持ちを考える。 ③ 役割カードの指示に従って、次の役割カードを引く。 ④ 引いたカードの内容をよく読み、その子どもの気持ちを想像する。 ⑤ 役割カードの指示が終わるまで、③と④繰り返す。 ⑥ カードの指示が終わった児童や、引くカードがなくなった児童は座ってほかの児童が終わるまで待つ。 </div> <p>3 ゲームを終えて、どのような結末になったかを全体で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路上で死んでしまった。 ・政府や国際機関、NGO の支援を受け、学校に行けるようになった。 	<p>●児童に問いかけながら今までの学習内容を振り返る。</p> <p>●カードに書かれている内容をよく読み、気持ちを想像してから次のカードを引かせることで、教育を受けられない子ども達の生活の様子を理解することができるようにする。</p> <p>●「スリ」や「路上」などカードに出てくる言葉のイメージを正しく理解できるように、写真を掲示する。</p> <p>●3種類の結末を紹介し合い、自立できた子は一部であることを確認することで、学校へ通うことので</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームの流れが書かれた掲示物 ・カードゲーム ・写真資料

<p>・ 駅で物乞いをする生活から抜け出せなかった。</p> <p>4 ゲームをした後に3つの気持ちについて友達と話し合う。</p> <p>＜辛かったこと・悲しかったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕事をさせられたこと。 ・ 路上で事故にあったのに誰も助けてくれなかったこと。 <p>＜楽しかったこと・嬉しかったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 両親に会えたこと。 ・ 学校に通えて自立できたこと。 <p>＜こんな助けがあればいいのに、と思ったこと＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物乞いをしているときに、何かわけてくれる人がいればよかった。 ・ うまく働けないでいたときに、もっといい仕事を見つけてくれれば自立できたかもしれない。 <p>5 ゲームをしてみたの感想や、さまざまな結末を聞いて考えたことなどをワークシートに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私はなかなかゴミ拾いの生活から抜け出せなかった。 ・ 友達は自立して学校に行けるようになっていて羨ましかった。 ・ もっと自立できる子が増えればいいのにと思った。 ・ 学校に行けずに毎日物ごいをしたり働いたりするのはとてもかわいそうで、とてもつらいことだと思った。 ・ 自分は今まで学校に行くことは当たり前のことだと思ったけど、学校に行けない子がいることを知ってびっくりした。また、そういう子たちのために自分にできることがあればやってみたい。 	<p>きない子ども達の生活の深刻さが分かるようにする。</p> <p>●友達と話し合う際には、3種類の結末の児童が1つのグループになるようにすることで、考えが深まるようにする。</p> <p>◆学習の感想や、考えたことを発表することで、学校に通えない子どもの現状について理解を深めることができたか。</p>	<p>・ ワークシート</p>
---	---	-----------------

